

Book Review

内科医から伝えたい 歯科医院に知ってほしい 糖尿病のこと その2

西田 互 著



Reviewer

内堀典保 Noriyasu Uchibori
一般社団法人 愛知県歯科医師会会長

B5判、108頁
定価（本体 3,200 円+税）
医歯薬出版刊



評者がこの本の出版を知ったのは「第30回日本医学会総会2019中部」において「糖尿病と歯周病の相互関係」というセッションで西田 互先生の講演を聞いたときである。

この学会は、医科における最大の学会でありながら、医師、歯科医師が参画する、まさに、医科歯科連携の最前線であった。

本書の著者である西田先生は医師のみでなく、歯科医師、歯科衛生士、行政関係者などに対する講演活動を積極的に行い糖尿病と歯周病を「炎症」という視点で語り、医科歯科共通の理解を希求している。

2017年7月に上梓された『内科医から伝えたい歯科医院に知ってほしい糖尿病のこと』では歯周病とそれに起因する慢性微小炎症の関連をバックボーンとして糖尿病治療と歯周病治療の関係性を歯科医に認識させるものであったが、続編ともいえる本書では医師とともに糖尿病に対峙することを求

める内容となっている。

冒頭で、EuroPerio9（2018年6月アムステルダム）で発表された新しい歯周炎分類が紹介され、重症度に基づくステージ分類と予後に基づくグレード分類があり、ここに全身のリスク要因として糖尿病が明記され、歯科が糖尿病の状態を把握して医科とともに歯周病治療に当たるべきであるというメッセージを紹介している。

さらに、2014年Jeffcoatらの研究で年4回以上の歯科通院が入院費用と入院回数を減少させることを紹介し、歯科における歯周病管理の重要性を示しながら、糖尿病、歯周病はともに「不治の病」であり中断しないように指導することを求めている。改めて、糖尿病と歯周病の関連性を熟知する必要があり継続的な対応が必要であると認識させられることになった。

早期糖代謝異常では歯周病から全身に波及している慢性微小炎症を改善することにより血糖値が改善し、糖尿病

の発症を防ぐことができる。東洋医学における「未病」の状態では医科の治療対象にはならないがこの時期における歯科の歯周病対応は全身の健康に繋がるものであり、歯周病の治療自体が全身の慢性疾患の予防に寄与することを示している。

本書では、全編を通じてエビデンスを示し明確な説明がされている。

折しも、2019年骨太の方針で「口腔の健康は全身の健康にもつながることからエビデンスの信頼性を向上させつつ、国民への適切な情報提供、生涯を通じた歯科健診、フレイル対策にもつながる歯科医師、歯科衛生士による口腔健康管理など歯科口腔保健の充実、入院患者などへの口腔機能管理などの医科歯科連携に加え、介護、障害福祉関係機関との連携を含む歯科保健医療提供体制の構築に取り組む」と記載された。本書はその実践を促す良書であり、広い視野で歯科医療に取り組むために必読の書であるといえる。